

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2018年5月31日

No.17

組合：業績は良好である！組合員の努力に報いよ！

会社：事業計画の達成に向けて重要な年度であり、慎重に判断をしたい！

～2018年度 夏季手当第3回交渉報告～

中央本部は、本日13時30分より第3回夏季手当交渉を行ない、組合要求の根拠を主張しました。

【要求の根拠】

1. 昨年度決算において増収・増益であり、過去最高益の利益を更新している。
2. 今年度に入っても、4月及び5月の収入は計画を上回る実績となっている。今日時点の営業日報でも年度累計で対計画もクリアし、好調を継続している。
3. 職場で組合員は額に汗して収入拡大にむけて奮闘している。その一方で要員不足や安定輸送に関わる課題は未だ解決しておらず、若年退職も未だに止まっていない。
4. 今年度の事業計画達成に向けて、更なるモチベーションの向上は極めて必要不可欠である。職場では夏季手当に対する期待は非常に大きい。

【要求の根拠に対する会社の考え方】

1. 28年度及び29年度の2年連続で鉄道事業部門の黒字化を達成できたことに対してお礼を申し上げる。
2. 昨日の収入状況は対計画で、コンテナ101.4%・車扱101.3%となり、合計で2億6千万円が計画より上回っている。
3. 今年度は、23年度からの自立経営計画の最終年度である。700億円の無利子融資で、コキ車3000両以上の取替、新型機関車の製造、駅・機関区設備の改修も行ってきた。
4. 鉄道貨物輸送を担うにあたり、高品質の商品をお客様に提供すると同時に連結決算で100億円の黒字は必達である。好調に浮かれることなく、残り10カ月様々なことを想定し、事業計画を達成しなければならない。したがって今年度は重要な年度であり、組合の主張も踏まえ慎重に判断をしたい。

会社の考え方に対し中央本部は以下のように指摘しました。

《会社に対して中央本部からの指摘》

1. 職場環境の改善に努めて来たと言うが現実をしっかりと見るべきである。今年度は女性社員を採用しているが、職場には風呂やトイレなどの設備が整っていない職場が多くある。また、設備も改善されていない中で、組合は収入拡大に向けて奮闘している。現場の声を聴くべきである。
2. 若年退職も一向に止まらない状況であり、人的投資は必要である。
3. 慎重に判断するとの会社の主張であるが、昨年度決算及び収入状況を鑑みれば、手当抑制をする根拠はない。組合員の頑張りや想いに応える回答を示すよう、強く訴える。

夏季手当獲得闘争は本日より闘争ゾーンに入ります。職場から創意工夫した取り組みを追求して、全組合員が結集した運動をつくりだしましょう。中央本部はその最先頭で奮闘していくことを申し上げ第3回交渉報告とします。

次回、第4回交渉は、6月7日（木）です。